

人間に生まれて "つながりを生きよう" 283

道宗は来たか? (蓮如)

今年は大雪の年でした、約一週間に一度は降雪の日があり、寒気も停滞してしばらくは寒い日が続いてみたり、二月二十日は春一番が吹いて一度に雪が消え、田んぼが見えてきました。寒さ暖かさを繰り返して、春を迎えています。

二月三日(立春)から朝の鐘を五時二十分についています、寒い中からでも少しでも春を感じ温かい光を季節の移り変わりからいただきたいと思っています。コロナの感染も毎日気になります。皆様お体ご自愛なさいまして春を迎えましょう。

五月五日の(立夏)からは、朝四時五十分に鐘をつき始めます。四季の巡りをかんじていきたいものです。

二月十一日は定期総会を開催しました。昨年度の行事会計報告、今年度の行事、事業計画、新役員選出等、決めていただきしました。詳しくお知りになりたい方は、お寺の方へ聞かれるか、住職にお尋ねください。また、この真敬寺だよりの紙面に少しずつ報告させていただきたいと思っています。

今年、聖徳太子一千四百年忌をテーマに、昨年、縮小などでできなかった行事の再開、行事内容の充実、掲示板の設置、本堂の上段の敷居取り替え工事等を予定しています。



3月真敬寺行事予定

7日(日) 真宗教室 午後二時

17日(水) 定例聞法会

午後 法話 大島一声さん

24日(火) 正信偈の会 午後二時

28日(日) 日曜学校修卒業式

蓮如上人は道宗さんが裏の坂を雪まみれになって下りてこられる姿を見て、鐘と太鼓を一緒に打たれたそうです、これを「道宗打ち」といわれます。

(井波別院の修正会の時)

定例聞法会の聞書

婦人追悼会

釜田哲男 (かまだてつお) さん

福野町教願寺住職



大変ひどい日になりました、こんなひどい日にお参りいただきましてありがとうございます。

「お天気」というものは私の思いではどうすることも出来ません。「気」というのは、変わるといふ意味合いで、水が沸騰すると

蒸気になります。水から水蒸気に変わるのです。また私たちに「気持ち」「気分」もまた良くなったり悪くなったり変わるので。

天が変わるのが天気なのです。これも私たちの思い通りには決してなりません。

今日はお寺でお参りがあるから晴れて欲しいといってもそうはいきません。私たちは天の気持ちの中で日暮らしをしております。

こんなひどい日になると思い出すことがあります、それは赤尾の道宗さんが井波の瑞泉寺に雪中、元日の朝お参りされたとき、五箇山から井波までの道宗道と言われるところを通り、五百年以上前にはどれだけの雪が積もっていたでしょうか、雪が深くて身動きが出来なくなってしまうようにな

り引き返そうとして、その時に懐にいつも蓮如上人に書いていた名号を持っておられ(懐中名号)、それを木の枝からぶら下げてお勤めをして、無理だから引き返そうとしたら、井波の方向に雪が風に飛ばされて薄いとところが見えてきて、これなら出られると思いい改めて井波の法へ目指して下られた、それで井波ではお朝事の間が来ていたそうです、そこでは蓮如上人へお勤めのご案内をしましたら、「道宗は来たか？」と尋ねられ「この大雪だから道宗さんは無理でしょう」そこで蓮如上人は「道宗は必ず来る、しばらく待て」と仰ってお朝事の時間を延ばされたら、そのうち道宗さんは裏の坂を雪まみれになって下りてこられ、蓮如上人は「鐘と太鼓を打

て」と指示され本来はお朝事が始まる合図として別々になるのですが、その時だけは一緒に鳴らしたそうです、これを「道宗打ち」と呼ばれるそうです。なので今でも一月一日だけは鐘と太鼓が一緒に鳴っています。

雪の中を泳ぐようにして、井波別院へ下りて行かれた道宗さんのお姿をこんな大雪になりましたら、思い出させていただけます。天気の良い日にお参りするだけでなく、道宗さんは「後生の一大事のちのあらんかぎり油断あるまじきこと」と仰ってくださいています。仏法を聴聞するということは「後生の一大事なんだ」「本当に大切なことなんだ」後生をあきらかにすること、このこと一つです。

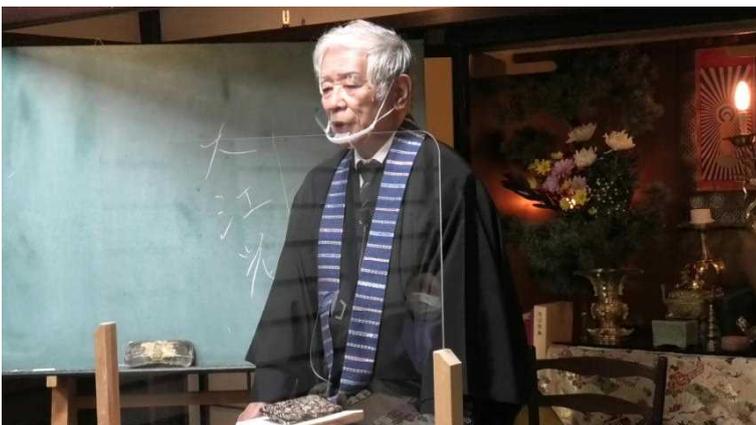
仏法を聴聞するのは何のためなのか？「後生」を死んだ後のことではないのです、蓮如上人はそうじゃないはずです、今一番大事なことは何か？ということなんです。ですから「今度」という言葉を付けて、この次ということではなく、「このたび」といことです。

このたびの私の一生に、一番大切なことは何なのか？

「いのち」のあらん限り、私の命のある間の、本当に大切なことは何かということ、このたび聞いていかねばならない、聞かせていただかないと明かにならない、私たちが私たちの思いでいくら考えても明かにならない、「聞かしていただく」ことがなかったら、私たちの人

生の一番大切なことが明かにならない。と教えてくださると思います。

この頃お寺へ足を運ばれる方が、どんどん減って参りませんが、「お寺さんの言うことがわからない」「言葉がわからない」「まるで外国の言葉を聞いているみたいだ」とも聞きます、仏教の言葉と
いうのは
と聞い
ていな
いとな
かなか
理解で
きない
言葉が
多くあ



ります、聞くということがないと、そのことを昔から「お育て」といわれ「育てていただいでやっとなんか聞かされた」といわれます。

三つや四つの時は誰も大人のいうことがわかりません、でも育てていくうちに大人の言うこともちゃんと理解できるようになります。

六十歳の方がその曲をどっかで聞いたことがあったと思ったら三十年前に亡くなったおじいちゃんが歌っておられた歌だった。その歌を聞かせていただいたことが数十年経っても私の中にずっとあったんだと改めておじいちゃんのご縁に合わせていただいで、自分が今こうしていることにお育てていただいで、恩徳讃の歌を聞いた。その方は今、仏様の前で手を合わせる事が出来ると教えてくださいました。いつの間にか誰もが、「お育て」いただいでいることに気づかせていただきました。



先月の行事から

七日(日) 真宗教室 午後二時
 十一日(木) 定期総会 午後二時
 十七日(水) 定期聞法会 午前 午後
 二十四日(火) 正信偈の会 午後二時

雪の晴れた日、山の専門家の門徒さんに横谷峠まで連れて行っていただきました。昔は金沢と行き来する重要な峠で、湯涌の門徒さんが来られたことを思いながら、かんじきを履いて登行でした。道宗さんは五箇山から井波まで山伝いに来られ、金沢の門徒さんはこの横谷峠を越えてこられたと想像します。

発行 〒 939-1664 富山県南砺市竹内 440



ホームページを開設しました

真宗大谷派(東) 小塚山真敬寺 宮地修

TEL 0763-52-0196 携帯電話 090-3760-5692